

# 日本柔道を取り入れたウイグル式レスリングの 統一ルール作り

ジュリエット・アブドルスリ\*・野瀬 清喜\*\*

キーワード：ウイグル式レスリング、柔道、伝統文化

## 1 緒言

戦場で敵を倒す術技であった武術は、時代の流れとともに、自らの心を磨くための方法(禅)を取り入れるようになった。また、武術は、禅のみならず、儒教の影響も受け、(術を手段として道に至る)という人間形成の場に止揚され、人々に普及していった。このように、日本古来から伝わる武術は、様々な思想や宗教の影響を受けながら「武道」として発展してきたのである。

また、日本固有の文化である武道の中で、柔道は幅広く世界各国に普及し、199の国と地域が加盟し、オリンピック・世界選手権など盛大な男女の大会が各大陸で開催されている。さらに、日本国内では学校体育でも武道が教材として取り上げられ、平成元年度からは、中学校・高等学校の選択種目として、男女共習の学習が行われている。

このように柔道は、国際的にも認識され、スポーツ教材としても確固たる位置を築いてきたといえる。

他方、ウイグル自治区内では、従来、県、町、村だけで行われてきたウイグル式レスリングの

大会が、自治区大会や地区大会が始まりルールを統一する必要性が高まってきている。

そこで本研究では、現代中国の現状を踏まえたうえで、新疆ウイグル自治区におけるウイグル式レスリングの実能を把握し、その普及状況を調査・考察し、活性化のための統一ルールを作ることを目的とする。

ここで提案するウイグル式レスリングの統一ルールとは、日本の柔道を手本として、新疆ウイグル自治区内及び、シルクロード上の各民族の伝統スポーツのエッセンスを加味したものである。本研究の最終的な目的としては、伝統スポーツを通じてのウイグル人としての民族性のアイデンティティを目指すものである。

また、この論文に取り組んだ契機になった理由として、以下のことがあげられる。

ひとつには、ウイグル式レスリングの試合の判定を巡り、死者まで出てしまい、皆が楽しみにして集まる試合場に警察が出勤し、緊張感が走った雰囲気の中で行われる試合を目撃したことである。このことは、民族として恥ずべきことであり統一ルールの上で行なわれなかったために起きてしまったことである。

もうひとつは、柔道、相撲の試合やK1等は、あれほど激しいスポーツでありながら素直に楽しむことができる。また、試合にはスポンサーがついている。それは、その競技に対する信頼

\* 埼玉大学教育学部研究生

\*\* 埼玉大学教育学部保健体育講座

に基づくものであり、経済的な相乗効果も相まって日本の格闘技界の今日の隆盛を支えている。これは選手を含め観客が安心して競技を見ていられるルールが確立されているからである。また、ウイグル式レスリングにおいても選手や観客がより気軽に触れ合って欲しい、もっと安心して見てもらいたいと考えたからである。

最後に、これが最も重要なことであるが、伝統的スポーツとして、ウイグル式レスリングを失うべきではないと考えたことである。この論文の最終的な論拠はスポーツを通じたウイグル民族としてのアイデンティティの主張である。ウイグル式レスリングが将来、今よりも強固な文化として、存続していくことを願っている。

## 2 研究方法

本研究では、中国伝統スポーツのひとつである、新疆ウイグル自治区におけるウイグル式レスリングの現状を調査する。また、ウイグル式レスリングの活動意義を明確にし、現在行われているウイグル式レスリングの資料、大会内容などを収集し提示する。これらの資料と柔道を中心とした徒手格闘技とも比較し、ウイグル式レスリングの普及について考察する。さらに、ウイグル式レスリングの試合が行われている6つの地州、6つの市、15の県での調査を進めた。調査方法は主にアンケート法で、全3種類、35の質問項目を設け、16歳から60歳までの2200人（男性1800人、女性400人）からの回答を得た。これらの他にシルクロードにおける様々な格闘技についても、ビデオ、写真を使って分析し、電話、電子メールを使ったインタビューを行った。

## 3 結果と考察

### (1) 柔道について

#### 1) 嘉納治五郎と柔道

現在、世界各国で、柔道と称されて行われて

いるものは、すべて嘉納治五郎が1882年に創始した講道館柔道である。国際柔道連盟の規約第一条にも嘉納治五郎により創始されたものを柔道と認めると明記されている。

嘉納は、1860年兵庫県御影町で出生し、1938年国際オリンピック委員会カイロ総会の帰国途中に太平洋上で、79才で生涯の幕を閉じている。

嘉納は「教育の事、天下これより偉なるはなし、教育の事、天下これより楽しきはなし」と終生教育の道を歩み、「高邁な見識と雄渾な気迫、そして寛大な襟度」をもって各界の人材を育てた。柔道人は嘉納の教育家精神と教えを守り柔道発展に力を注ぎ、講道館は教育的立場に立った社会貢献の場となったのである。

#### 2) 柔道衣

柔道衣とは、上着と下穿きと帯を合わせて言う。色は、上着および下穿きは白と青色のカラー柔道衣が採用されている。帯の色は修行の段階によって異なる。正式には初段から5段までを黒帯、6段から8段までを紅白の帯（縦縞模様）、9段以上（女子柔道は8段以上）は紅色とされているが、6段以上でも黒帯を用いてもよい。段外者は普通白帯を用いる（日本女子柔道では、白帯以外の帯は、その中央に約1cm幅の白線を入れる）。

#### 3) 柔道の礼法

柔道の技能は本来、激しい格闘技術を基盤としている。しかし、その練習や試合においては相手を尊重し、自らも謙虚で冷静な心が要求される。技能の上達はもちろん、人格の向上をめざし、ともに真理を求める心をかたちで表す作法が礼法である。礼の形式には、立礼と座礼の二つがある。

#### 4) 受け身

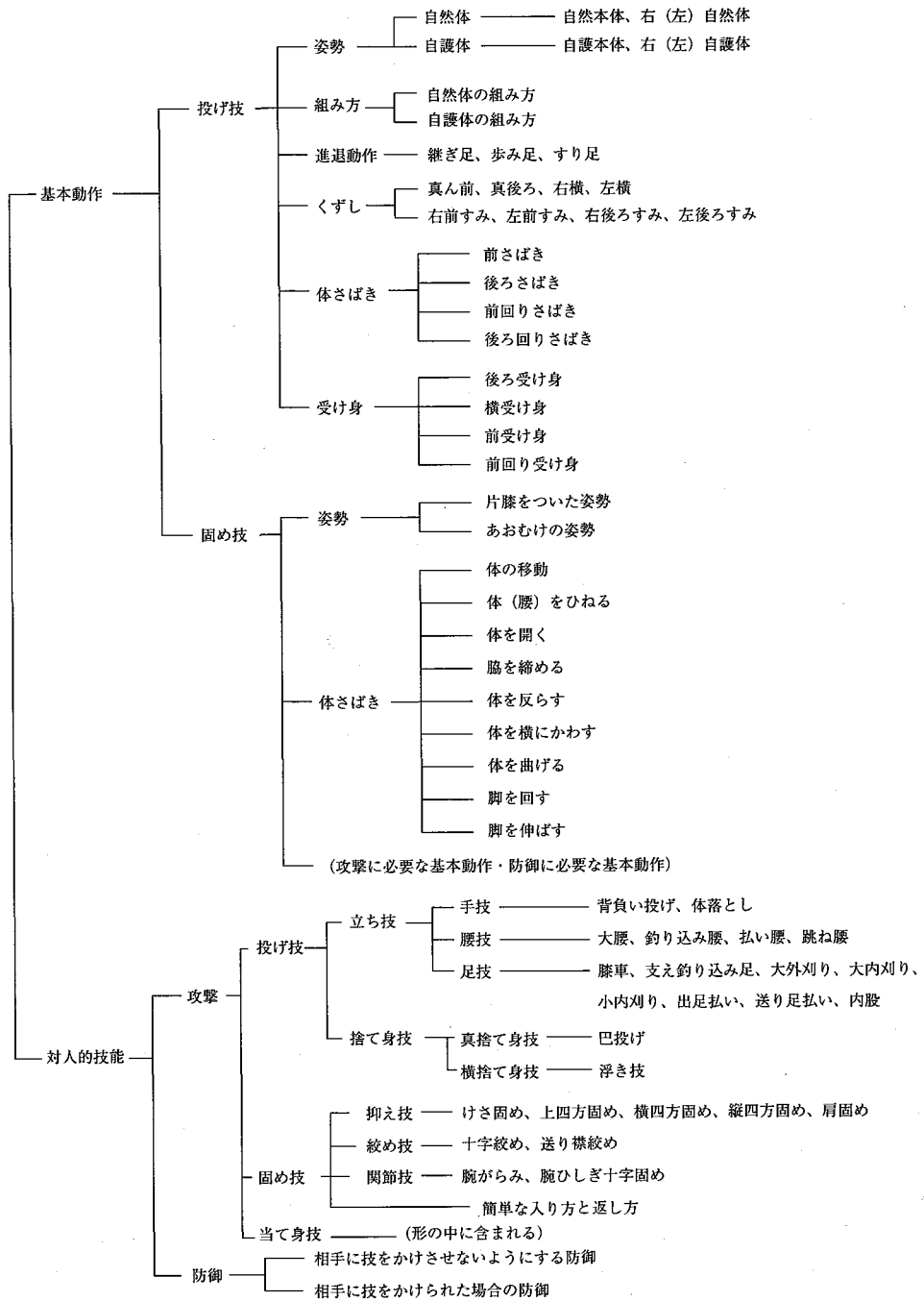
受け身とは自分が倒れたときも、相手から投げられたときも、怪我をしないように痛みを軽減し、楽に倒れるようにすることである。受け身の練習は、最初はその場で穏やかに低い姿勢のものから始め、次第に早くかつ高い姿勢に移り、次いで移動しながら行なう練習に進むのが

大切である。

5) 柔道の技能

柔道の技能は「投げ技」「固め技」「当て技」

の三種類に分けられる。投げ技は、相手が維持しようとする姿勢を崩して地床に倒すことで、その種類は大変多くある。表1は柔道の技能構造を



※この他に、技の連絡変化が例示されている。

表1 柔道の技能構造

まとめたものである。

## 6) 柔道の教育的価値

柔道は、心身の力を最も有効に使用する道である。その修行は、攻撃防御の練習によって身体精神を鍛錬修養し、その道の真髄を体得する事である。そうして、是によって、己を完成し、世を補益するのが柔道修行究極の目的である。

## 7) 柔道の試合審判規定

柔道の試合審判規定には、国際柔道連盟試合審判規定と講道館柔道試合審判規定がある。ここでは講道館柔道試合審判規定を参考として各条を整理した。大項目は1. 試合場(第1条)、2. 服装(第2条～4条)、3. 試合(第5条～第15条)、4. 審判(第16条～第34条)、5. 禁止事項(第35条～第36条)、6. 勝負の判定(第37条～第44条)からなる。附則として少年規定が定められている。

## (2) ウイグル式レスリングについて

### 1) ウイグル式レスリングの歴史

ウイグル式レスリングはウイグル族の間で昔から祭、結婚式、遠足、祝事、集会などで村と村、県と県の試合が行われ、力比べ、勇気、選手の力強さを証明する伝統的スポーツのひとつである。1983年、マラリベシ県チョウンテミ遺跡から古代ウイグル式レスリング選手の陶器で作られた像が発見されている。考古学研究者の研究発表でトゥクズ サライ(ravages guest house nine)と同時代、西暦紀元7世紀から10世紀の間に作られたものであるといわれている。この像に表現されたレスリングは現在のマラリベシ県、アトシ県、パイザワテ県、トクザク県などで見られる。

### 2) ウイグル式レスリングの現状

ウイグル式レスリングは18世紀後半から20世紀前半まで、ウイグル族の間で人気スポーツのひとつであった。ウイグル式レスリングはウイグル族の生活の中で、試合のある時だけではなく、何人かの男が集った所や、畑仕事の合間、草原で動物を飼っている時、学校や自宅の庭な

どに集って、自然に行われ、楽しむことを目的としていた。1955年まで、ウイグル式レスリングは国民の間で幅広く行われ、日曜日のバザールではいつも試合が開催され、優秀者達は、英雄と称えられ、人気種目で、勝つことは若者の目標であった。

1958年に、新疆ウイグル自治区レスリング隊が結成され、シュアイジョウ、グレコロマン式、フリースタイルなどが教えられている。

1990年代から中国の経済的發展や改革により、体育局・芸術局・文教局が合併され、文化局となった。このことにより今まで、村、町にもあった体育局が資金不足でなくなり、幼少期からのスポーツ選手の育成が難しくなってきた。

また、ウイグル式レスリングは中国では正式競技ではないため、伝統スポーツとして子どもたちと触れ合う機会が少なくなっており、ウイグル式レスリングを含む伝統的スポーツがなくなる恐れも出てきている。

### 3) ウイグル式レスリングの特徴

ウイグル式レスリングは、日常生活の中に深く関わっている。畑仕事、遊牧、バザール、結婚式、学校、家の庭などでも、ストレスの発散や収穫の神への感謝、結婚の喜び、子どもたちに勇気や、健康を与えるなどの目的で行われていた。試合場は柔らかい土の上で、大きさは、観客の数に合わせて変えることができる。服装は昔ながらの普段着で、今も日常生活で多く人々が着ているものを使う。子どもから年よりの幅広い年代に楽しめる運動である。

### 4) ウイグル式レスリングの技能

ウイグル式レスリングには抑え込む技がない。立ち技が中心で、手技、足技、腰技に分けられる。

## (3) ウイグル式レスリングに関する調査

### 1) アンケート1

アンケート1は、新疆ウイグル自治区におけるウイグル式レスリングの現状を把握するために作成したものである。5県5市で16歳から60

歳までの、男性600人、女性200人に協力をいただいた。

質問項目は12項目であり質問の内容は以下の通りである。

- ①ウイグル式レスリングの試合を観戦したことはありますか。
- ②ウイグル式レスリングをやったことがありますか。
- ③ウイグル式レスリングに統一ルールが必要だと思いますか。
- ④出身地ではウイグル式レスリングの試合が行われますか。
- ⑤試合場は砂ですか。マットですか。
- ⑥試合はどんな場所で行われますか。
- ⑦試合場の形はどんな形ですか。
- ⑧選手たちに統一の服がありますか。
- ⑨出身地ではウイグル式レスリングをどこで教えますか。
- ⑩女性も観戦しますか。
- ⑪試合は体重無差別ですか。

図1は、アンケート調査に対する回答である。アンケートのマル数字は質問項目と一致している。対象者の61%のものが観戦の経験があり、22%が実際にウイグル式レスリングを体験したと答えている。統一ルールが必要かについては、71%が必要と答えており、75%が出身地で試合が行われると答えた。試合場については砂が60%、マットが30%、試合会場は、体育館、広場、バザールの順であった。試合場の形は相撲

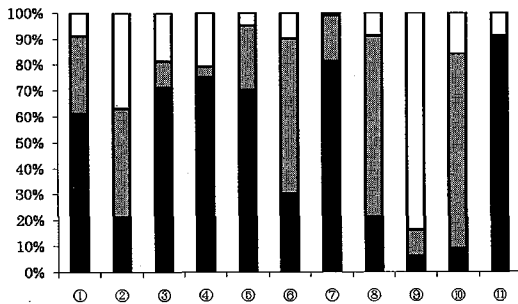


図1 アンケート1：ウイグル式レスリングについて

と同じ円形が70%以上で、統一した服装はないとの答えが多かった。どこでウイグル式レスリングを教えるかという質問にはわからないという答えが80%を超えた。試合は無差別で行うとの答えが多く、女性も観戦する地域がほとんどであった。また、この図にはないが、⑫の大会が開催される時期は10月(50%)、5月(40%)2月(10%)に集中している。

以上の結果より各地区で行われているウイグル式レスリングには、統一ルール、統一した服装もない場合が多く、体重制も確立していない。これらのことより現在行われているウイグル式レスリングは、スポーツとしてよりも、むしろ儀式的な要素が強いと考えられる。

## 2) アンケート2

アンケート2は、ウイグル人が格闘技にどのくらい興味、関心を持っているかを知るために行ったものである。16歳から60歳までの、男性600人、女性200人に協力をいただいた。

質問項目は10項目であり質問の内容は以下の通りである。

- ①柔道の試合を観戦したことがありますか。
- ②グレコローマン式レスリングの試合を観戦したことがありますか。
- ③フリースタイル式レスリングの試合を観戦したことがありますか。
- ④トルコのオイルレスリングの試合を観戦したことがありますか。
- ⑤モンゴル式相撲の試合を観戦したことがありますか。
- ⑥日本の相撲の試合を観戦したことがありますか。
- ⑦韓国式相撲「シルム」の試合を観戦したことがありますか。
- ⑧スイス式相撲の試合を観戦したことがありますか。
- ⑨セネガル式相撲の試合を観戦したことがありますか。
- ⑩中国「漢族」のシュアイジョウの試合を観戦したことがありますか。

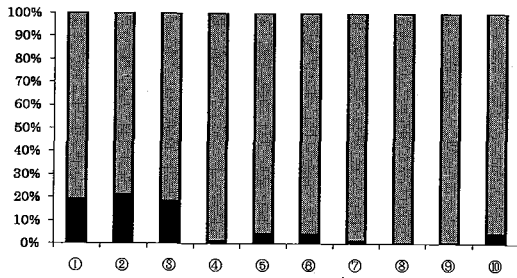


図2 アンケート2：格闘技に関する質問

図2はアンケート結果をグラフに表したものである。

見たことがあるとの回答は、グレコローマン式レスリングが最も多く22%、次いで柔道20%、フリースタイル式レスリング18%、モンゴル相撲4%、日本相撲3.5%の順であった。

これらの結果はウイグル人の中国代表選手が1990年アジア大会グレコローマン式レスリングで銀、銅メダルを獲得しているためである。また柔道もウイグル人に広く知られている。この他には韓国のシルムも含めアジアの格闘技に興味を示しているということが理解できた。観戦の方法としては、ほとんどがテレビ観戦であるがモンゴル相撲に関しては体育館で見たとの回答が多かった。体育館で見たことのある種目は、柔道、グレコローマン、フリースタイルのレスリング、シュアイジョウが10%～20%程度であった。

アンケート2の結果をまとめてみるとウイグル人は、オリンピックの正式競技をテレビ中継で観戦することが多くそれ以外の種目はほとんど見ていない。すなわち、これらの種目はウイグル式レスリングの場合と異なり、あくまでもスポーツとしてとらえているものと思われる。

### 3) アンケート3

アンケート3はウイグル式レスリングの試合に参加したことがある選手たちに意識調査を行なったものである。回答をしてくれた選手は600人であった。

質問項目は12項目であり質問の内容は以下の

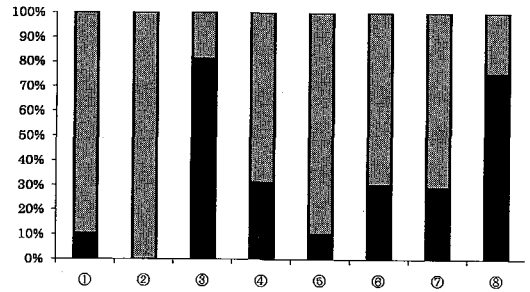


図3 アンケート3：ウイグル式レスリング選手に対する意識調査

通りである。

- ① 普段ウイグル式レスリングの練習をしますか。
- ② 試合時間は決まっていますか。
- ③ 試合時間は決まっている方がいいと思いますか。
- ④ 試合のルールを知っていますか。
- ⑤ 試合のルールに満足していますか。
- ⑥ 選手たちに統一した服があった方がいいと思いますか。
- ⑦ 試合は毎年同じ時期で行われた方がいいと思いますか。
- ⑧ ウイグル式レスリングを学校教育で教えた方がいいと思いますか。
- ⑨ 試合場は砂がいいですか。マットの方がいいですか。
- ⑩ 試合場の形はどんな形の方がいいですか。
- ⑪ ウイグル式レスリングに何回参加したことがありますか。
- ⑫ どこで練習しますか。

図3は①～⑧に関する回答を表わしたものである。

普段から練習すると答えた者は10%であり、全ての選手が試合時間は決まっていないと答えた。しかし、試合時間を決めて欲しいと望んでいるものが80%を超えた。ルールを十分に認識せずに試合をしていると答えた者が多かった。そのためルールに対する不満も多く統一した服装に関しても30%程度のものであった方は良い

と答えた。特筆すべきことは選手の70%を超える者がウイグル式レスリングを学校体育に取れ入れて欲しいと回答したことである。また⑨の試合場に関する質問に対しては砂場が良いと答えた者が半数を超え、円形の試合場を望むものが78%と圧倒的に多かった。

#### (4) シルクロードにおける格闘技

シルクロードにおける投げ技を主体する格闘技は、日本の相撲・柔道・韓国のシルム・中国のシュアイジョウ・モンゴル相撲・ロシアのサンボ・ゲルジアのチタオバ・トルコのオイルレスリングなどがあり、それぞれ伝統的な儀式や服装、礼法や神に対する祈りなどの形式が含まれていた。これらの格闘技の中で世界的なスポーツとして発展したのは柔道のみであった。

## 4 まとめ

本研究では、嘉納治五郎の理念、柔道の教育的価値、競技特性、審判規定等とシルクロードにおける格闘技の良さをウイグル式レスリングに取り入れ統一ルールを作ることを目的とした。

ウイグル人800人、ウイグル式レスリング選手600人に対するアンケート調査結果をもとに作成した統一ルールは以下の通りである。

### 1. 試合場

直径20mの円内とし、危険防止のために、30cm～50cmの厚さで砂を敷く。回りに砂袋を敷く。

### 2. 服装

試合者は、規格に合ったウイグル式レスリング衣を着用し、赤または緑色の帯をしめる。試合者は必ず裸足であること。

### 3. 危害防止

試合者は手足の爪を短く切ること。試合者は金属その他相手に危険を及ぼすようなものは、一切身につけてはならない。

### 4. 試合

試合は、試合場内で行うものとする。試合

者の一方又は双方が、場外に出た場合に施された技は無効とする。試合者が場外に出た場合は、片足でも出たときをいう。

投げ技の効果があつたとき、技を施した者が、効果があつた瞬間まで場内にいた場合は、他方の全身が場外に出ている、その技は有効とする。

### 5. 試合の開始

試合者は、試合場の中央で、向かい合って立ち、お互いに握手し、お互いの帯を十分持つ。審判員の「Baxla (始め)」の宣告により、直ちに試合を始める。

### 6. 試合の終了

選手は試合終了時、向かい合って立ち、審判員の宣告と指示あるいは、動作の後、お互いに握手し、試合を終える。

### 7. 試合の技

試合者は投技で勝負を決する。

投技とは、手技、腰技、足技とする。

### 8. 勝負

試合は立ち勝負から始め、一本勝負とする。主審は、試合者の施した技を「Numur (一本)」と認めたとき、又は禁止事項を犯したと認めたとき「Tohta (それまで)」と宣告してその試合をやめさせ、双方を試合開始時の位置に戻させた後、勝者を宣告し指示する。

「Numur」の判定は技を掛けるか、又は相手の技をはずして相当の勢い、あるいははずみでだいたい仰向けに倒したとき。試合者が投げられたとき、意識的に頭と足で身体を支え、背中を地面につけない場合でも、「Numur」の条件を致すときは「Numur」と判定する。

### 9. 試合時間

試合時間は10分から20分の間で、試合関係者が、あらかじめ定めるものとする。時間内に勝負がつかなかった場合、仕切りなおしをして延長戦を行うなどして、何らかの方法で勝敗を決めるものとする。

## 10. 試合時間終了の合図

試合終了の場合は、鈴その他の方法でこれを審判員に知らせる。

試合終了の合図と同時に施された投技は有効とする。試合終了の合図と同時に施された投技とは、試合終了の合図と同時に投技が掛け始められており、瞬間的に決まるものをいう。

## 11. 審判

審判員の決定は絶対であって、これに抗議することは許されない。

審判員は主審一名、副審は二名、時計、記録係は一名をもって原則とする。場合によっては、主審、副審各々一名、又は審判員一名でもよい。

主審は場内に在って試合の進行並びに勝負の判定をする。副審は、主審を補佐する。副審二名は、場外の勝負見やすい相隔たった場所に各々位置する。時計、記録係は主審の宣告を記入し、時間を審判員に知らせる。

## 12. 審判の動作

審判員は、宣告等の際、次の動作を示すものとする。

### (1) 主審

- ①「Numur」片手を伸ばし上方に高くあげる。
- ②「反則」宣告を受ける者に向かって、その試合者側の握り拳から人差し指だけをのばして指差す。
- ③「試合終了」双方を試合開始時の位置に戻させた後、勝った者を指示する。

### (2) 副審

#### ①場内と認める場合

片手を伸ばし、その試合場の境界線に沿わせて上方に上げた後、ほぼ肩の高さに下ろして停止させる。

#### ②場外と認める場合

片手を伸ばし、その試合場の境界線に沿わせ、ほぼ肩の高さに上げ、水平に二、三回振る。

### ③合議等の必要を認めた場合

その場に立ち上がり、片手を伸ばし肩の高さまで水平に上げ、指を上にして掌を主審に向ける。

## 13. 禁止事項

- (1) 審判員の制止又は指示に従わないこと。
- (2) 場外で技を施すこと。
- (3) 相手の体に危害を及ぼすこと。
- (4) 相手の洋服をくわえたり、相手の顔面に直接手や足をかけること。
- (5) 相手の帯を腰の下に又は肩の上にもっていくこと。
- (6) 相手の帯を手をまきつけて絞ること。
- (7) 服装を乱すこと、及び審判員の許可を得ないで勝手に帯等を締め直すこと。
- (8) 手を相手の帯から離すこと。片手は相手の帯から離してよいが、離れた手で相手の服をつかむことは反則とする。
- (9) 攻撃しているように印象を与えるが、明らかに相手を投げる意志のない動作を行うこと。
- (10) 故意に、場外に出ることや相手を出すこと。
- (11) かわずがけをかけて、つま先までからめること。
- (12) 技を掛けながら身体を前方に低く曲げ、頭から地面に突っ込むこと。

## 引用・参考文献

- 1) 野瀬清喜他『武道の伝統的な行動のしかたについて』埼玉大学教育学部紀要, 89頁～90頁, 第51巻第1号, 2002.
- 2) 花田勝治『シルクロードとスポーツ』奈良シルクロード研究センター, 13頁～19頁, 1995.
- 3) 栗原民雄『柔道の習い方』鶴書房, 1960.
- 4) 村田直樹他『柔道の視点』道と書院, 柔道指導



- 者研究会，4頁～5頁，2000.
- 5) 全日本柔道連盟『講道館柔道試合審判規定』講道館，全日本柔道連盟，2001.
- 6) 強建国・クデラット・アプリミテ『中国・新疆民俗大観』新疆美術攝影出版社，3頁～7頁，2001.
- 7) クデラット・アプリミテ『新疆民族体育』人民体育出版社，5頁～17頁，1985.
- (2008年3月28日提出)  
(2008年4月25日受理)

# A Study of Adopting the Rules of Uighur Wrestling Based on the Model of Japanese Judo

Julaiti ABUDUROUSULI and Seiki NOSE

Keywords : Uighur wrestling, Judo, Tradition

This study is aimed at suggesting adoption of practical ideas from Japanese Judo into the rules of the Uighur wrestling born in Xinjiang Uighur Autonomous Region, from the viewpoint of appreciating original value of Japanese judo created by *Jigoro Kano*. This study should reach the final goal of development of Uighur wrestling as a sport, which should be identified with the Uighur race. The followings are the rules made based on the research to 800 Uighur and 600 Uighur wrestlers.

## 1. Competition Area

The competition area shall be a circle of 20m in diameter and covered with 30-50cm thick sand for safety. Sandbags shall surround around the circle.

## 2. Dress

The contestant shall wear the standard Uighur wrestling clothes with a red or green belt tied around it at waist. The Contestant shall be in bare feet.

## 3. Hygiene

The nail of hands and toes shall be cut short. Nothing which can harm other contestants, such as metal or other hard accessories, should be worn.

## 4. Valid areas

The contest shall be fought in the contest area. Any technique performed when either or both of the contestants are outside the contest area shall be invalid.

Contestants shall not step out of the competition area until the match is over, That means, neither of the feet of both contestants shall not be outside the circle.

When one contestant performs an effective throw and still remains inside the circle at the moment of the throw, it is considered valid even if the opponent falls completely outside the competition area.

## 5. Start of Contest

A match shall be started with the signal *Baxla* by the Referee. Before the signal the two contestants shall stand face to face at the starting position in the center and shake hands each other, and grip each other's belt.

## 6. End of Contest

When the contest time is up, the two contestants shall stand in the same way as the beginning. The Referee shall award the winner before the contestants shall shake hands each other and leave the competition area.